

## 2021 年度 入学試験問題

# 国 語

## (第 4 回)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校



【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ためらいもなければ、含みも曲折もない、そんな単純な物言いが溢れている。思考を停止したまま、不満や不安の強度を単純に高めるだけの、そんな粗雑な物言いが。ワン・フレーズのイメージ語、それがひとびとの意識を攫ってゆく。それは、ワン・フレーズで言い切られるものであるがゆえに、曲折もなければ否定による媒介もない。つまりは「極・単」（ごく単純）このうえない。たとえば「勝ち組・負け組」という物言い。「負け組」に向けられるあつけらかなとした嘲笑は、かつて二十歳の女性を「おばさん」と呼んだあの女子高校生の感覚を思い出させる。いずれすぐ自分もなる世代を唾棄するというのは、つまりは自分自身を唾棄することにほかならない。①それは、言葉というよりもむしろあまりに単純な羨望のナイーヴな叫びであり、またそうでない自分をなじる悲鳴だと言える。そして、単純に強度を加えるだけというところに、細部のニュアンスや複雑なコンテクストへの配慮をあえてしないところに、何か深い苛立ちを、あるいは暴力性の澱を、つい感じてしまう。

屈折も否定による媒介もない思考には、他のひとびとの思いや感じ方への過剰な同調はあっても、興行きはない。まわりから期待されている思考や感覚の型にすつと嵌らないもの、あるいはそれから外れるものを認めつつ、それらとじっくり摺り合わせをおこなう、そうしたためがない。②このことを、思考に肺活量が足りないと言いかえてもよい。

では、思考のその肺活量とは何か。それは、いますぐわからないことに、わからないままつきあう思考の体力と言ってもよいし、あるいはすぐには解消されない葛藤の前でその葛藤にさらされつづける耐性と言ってもよい。

わたしは戦後生まれの第一の世代に属する者であるが、この世代は「受験戦争」なるものにもやでも巻き込まれた最初の世代でもある。受験勉強はゲームみたいなもので、要領よく点数を稼いでできるだけ短い時間で済ませたほうがよいというふうには、わたしもこの「戦争」を受けとめていた。けれども、同級生たちが五十代になって企業や役所などでそれなりに責任のある立場に就くようになって思ったのは、受験勉強でついた頭の癖というのはゾンガイしつこかったなどということだ。入学試験や模擬テストを受けるとき、試験問題がくばられるとまずはぱらぱらとめくって、やったことのある問題、かならず解ける問題を探し、次に見たこともない問題、何が問われているのかさえわからないという問題を見つけて捨て、それからまずかならず解けるその問題で最低点を稼いで、あと残りの時間は、グレーゾーンにある問題、つまりひよつとしたら解けるかもしれない問題に集中する。

けれどもこの方法を社会の現実に適用すればたいへんなことになる。変動期にある社会は、さ

まざまの構造的な問題を内蔵している。これまでの <sup>b</sup> シャクドでは <sup>③</sup> 測れないような困難な問題を  
をである。そのような複雑な問題に直面したとき、まずはわかるところから対応するというのな  
らまだしも、いま起こっている理解困難な問題、その本質がだれにもまだ見えていない問題を、  
自分がこれまでに手に入れた理解の方式で無理やり解釈し、歪めてしまうというのは最悪の対処  
の仕方であろう。

わかっているものだけで解釈するというこのことが、先に述べた「極・単な思考」を招きよせ  
る。しかし、社会の複雑な現実を前にしてわたしたちが働かせるべき頭というのは、すぐにはわ  
からないけれども大事なこと、それを見いだし、そしてそのことに、わからないまま正確に対処  
するということだ。

まず、政治的な思考について。政治的な判断はきわめて <sup>B</sup> 流動的で不確定な状況のなかでな  
される。外交政策であれば、それぞれの <sup>おもわく</sup> 思惑を測り、いくつかの可能性を想定して、それぞれに手  
を打つ。しかし、そうした対処したいが関係国の思惑を刺激し、事態はいつそう複雑になってく  
る。国内政策であれば、さしあたって不可欠の政策AとBがあるととして——たとえば景気刺激と  
構造改革という、<sup>c</sup> アイハンする政策——、いずれを先にするかでAとBのそれぞれの政策とし  
ての実効性は大きく変じる。政策が置かれる状況じたいが大きく変化してしまうからである。だ  
からAに先に手をつけるのか、Bを先に実行するのか、それを手遅れになることなく決定しな  
ければならない。けれどもいずれが有効か、だれも見通せているわけではない。見通せないけれど  
も決断しなければならぬのだ。つまり、結果がわからないまま、わからないことに正確に対処  
するということ、それが政治的思考には求められるのだ。

次に、ケアの思考について。病院で、ある患者がひじょうに <sup>d</sup> シンコクな病に陥ったとき、そ  
してどういう治療と看護の方針をとるかというときに、考えは立場によって大きく異なる。医師  
の立場、看護師の立場、病院のスタッフの立場、患者の家族の立場、そして何より患者本人の思  
いと、さまざまな思いや考えが錯綜する。そのうちだれかの意見をとれば、別のだれかが納得し  
ない。つまりここには正解はない。一個の正解がないままスタッフたちは、猶予もなしに治療と  
看護の方針を決めなければならない。

最後に、アートの思考について。たとえば、制作中の画家には、自分が表現しようと思ってい  
るものが何かよくわからない。描きたい、表現したいという <sup>※しよはく</sup> 衝動だけは明確にあるが、描きた  
いそれが何であるかは自分でも掴めていない。けれども、ここはこの色でなくてはならない、あ  
そこはこういう線でなければならないという必然性は感じている。だから画面のある一色だけを  
別の色に置き換えれば全体が台無しになってしまう。これしかありえないという必然性を追うな  
かで絵はやつと描き終わる。しかしその画業の意味を問われても答えようがない。画家の元永定  
正さんは自分の作品について「これは何ですか？」と問われるといつも、「これはこれです」と  
答えるのだという。そういう意味では、曖昧なものを曖昧なままに正確に表現する、一箇所もゆ  
るがせにしないで、正確に、これしかないという表現へともたらすこと、これが画家の力量であ

る。

このように、政治、ケア、描画のいずれにおいても、いちばん大事なことは、すでにわかっていることで勝負するのではなく、むしろわからないことのうちに重要なことが潜んでいて、そしてそのわからないもの、正解がないものに、X。そういう頭の使い方をしなければならぬのがわたしたちのリアルな社会であるのに、多くのひとはそれとは反対方向に殺到する。わかりやすい言葉、わかりやすい説明を求める。

だが大事なことは、困難な問題に直面したときに、すぐに結論を出さないので、問題が自分のなかで立体的に見えてくるまでいけば、<sup>④</sup>潜水しつづけるといふことなのだ。それが、知性に肺活量をつけるということだ。目の前にある二者択一、あるいは二項対立にさらされつづけること、対立を前にして考え込み、考えに考えてやがてその外へ出ること、それが思考の原型なのに、そうした対立をあらかじめ削除しておく、均しておくというのが、現代、ひとびとの思考の趨勢であるように思われてならない。

ひとは、思いどおりにならないもの、理由がわからないものに取り囲まれて、苛立ちや焦り、不満や違和感で息が詰まりそうになると、その鬱ぎを突破するために、自分が置かれている状況をわかりやすい論理にくるんでしまおうとする。その論理に立てこもろうとする。わからないものをわからないまま放置していることに耐えられないからだ。だから、<sup>⑤</sup>わかりやすい物語にすぐに飛びつく。

会話においてもよく似た現象に行きあたる。意見の対立があるときに、あるいは意見の対立が発生する前に、「わかるでしょ」という合図を送る、そうしたもたれあいの会話だ。しかし、時代を見通すような眼を手に入れるためには、「わかるでしょ」というそのようなもたれを解除して、ものごとをもものごとの線に沿ってロジカルに考える作法を身につけなければならぬ。ついこのあいだまでの社会では、よく知りあっている者どうしがわざわざ言葉で言わなくともたがいの言いたいことがわかるというのが、望ましいコミュニケーションのモデルとしてあった。けれども現代の都市生活では、知らない者どうしが異なる意見を交わしながら、ともに社会を運営してゆけるような能力が求められる。

(驚田清一『わかりやすいはわかりにくい?』より)

※唾棄……ひどく嫌うこと。

※ナイーヴ……純真なさま。

※コンテキスト……文脈。

※澱……すつきりと吐き出されないので、かすのようにして積もりたまるもの。

※衝迫……強い欲求。

※趨勢……社会などの全体の流れ。



問7 空らん Xにはどのような内容が入りますか。文章構成をふまえ、文中のことばを用いながら二十字以内で考えて答えなさい。

問8 ——線④「潜水しつづける」ことよってどのようなことができるようになると筆者は考えていますか。本文全体をふまえて、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 入学試験や模擬テストのように、短い時間で要領よく得点を稼ぐという方法を用いることによって、社会の複雑な現実に向かう適応力を身につけることができる。
- 2 誰もが納得しないような正解のない問題に対しても、問題の本質を見抜くことで即座に選択肢を絞りこみ、答を導き出すための発想力を身につけることができる。
- 3 理解困難なことの多い現代社会の、経験則では解決できない多くの問題に対して、これらの問題に向き合い続けて適切に対処するための思考力を手に入れることができる。
- 4 知らない者どうしが異なる意見を持つことの多い現代社会の、対話によって解決できる問題に対して、意見を調整して問題を解決する対話力を手に入れることができる。

問9 ——線⑤「わかりやすい物語にすぐに飛びつく」とありますが、この例として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 新型コロナウイルスの感染者が増えている状況で、感染防止対策が十分にとられていたのか調査するとともに風評被害が起きないように努める。
- 2 なかなか試験の成績があがらないつらい状況で、先生の教え方や教材が悪いと考えるのではなく取り組む姿勢や時間の使い方を考え直してみる。
- 3 クラスの中で意見が対立してしまう難しい状況で、クラス全員が納得できるように先生と協力して議論が進みやすい環境を整えておく。
- 4 なにをやってもうまくゆかないような苦しい状況で、しずんだ気分になっているときに病気だという診断を医師に下して欲しいと願う。

(問題は次のページに続く)



2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スプリングフィールド事件によって四年の刑で服役したジミー・バレンタインは、わずか四か月で罪を許される。刑務所から出るやいなや、ジミーは再び犯行を重ねるが、敏腕刑事ベン・プライスがその捜査に乗り出した。

この抜け目のない金庫破りの捜索に、ベン・プライスが乗り出したと公表されると、金庫を持つ人々は一安心した。

ある日の午後、アーカンソー州の小さな町で、スーツケースをさげたジミー・バレンタインが郵便馬車からおりた。鉄道から五マイルほどはなれた緑の多い町だ。帰省した大学の運動選手にも見える若々しいジミーは、板張りの歩道をホテルにむかつて歩いた。

街角で道をわたってきた若い女性がジミーの前を通りすぎ、「エルモア銀行」という看板の建物のなかへ入っていった。その女性の目を見つめたジミー・バレンタインは、<sup>①</sup>その瞬間、自分の過去をすべて忘れ、別の人間へと生まれ変わった。

女性は視線を落とし、かすかに頬を赤らめた。ジミーのようにこざつぱりした若者は、このエルモアではとお目にかからないからだ。

銀行の階段に、まるで株主でもあるかのようにすわってぼんやりしている男の子がいた。ジミーはその子の襟首をつかみ、十セント硬貨を小出しにしながら、町について根掘り葉掘りたずねた。

そうこうするうちに、例の若い女性が銀行から出てきた。<sup>②</sup> スーツケースを持った若者には気づきもしないという風に顔を上げて立ち去った。

「あの人はたしかポリー・シンプソンさんだったよね」ジミーはしれつとしてたずねた。

「ちがうよ。アナベル・アダムズさ。父ちゃんはこの銀行の頭取だよ。あんた、エルモアになしにきたんだ？ その時計の鎖、本物の金だろ。おれ、ブルドッグを飼うんだ。ねえ、もっとお金をちょうだいよ」

ジミーはラルフ・D・スペンサーの名でパーマー・ホテルにチェックインした。ジミーはカウンターに身を乗り出して、フロントにむかつて早速一席ぶつた。

「エルモアにはビジネスの拠点を見つげるためにやってきたんだけど、この町で靴屋は商売になると思う？ うまくいくかな？」

(中略)

一年がたつころには、スペンサー氏の未来は大いに明るく輝いていた。町の人々からの尊敬を勝ち取り、靴屋も繁盛したうえに、ついにアナベル嬢との結婚が二週間後にせまっていたのだ。地方の銀行家の典型ともいえる堅実なアダムズ氏も、スペンサーのことを認めた。アナベルはスペンサーのことをたいそう誇らしく思い、またそれに負けない愛情も抱いていた。



スペンサーはすでにアダムズ家の一員でもあるかのように、アダムズ氏の家族とも、アナベルのすでに嫁いだ姉の家族とも親しくつきあっていた。

ある日ジミーは、自分の部屋の机にむかつて、セントルイスに住む信頼のおける友人に手紙をしたためた。

#### 親愛なる旧友へ

来週の水曜日夜九時に、リトルロックのサリバンの店で会わないか？ ちよつとばかりたのみたいことがあるんだ。それから、おれの道具一式もプレゼントしたいしな。よろこんでもらえると思う。なにしろ、一千ドル出したっておなじものは作れないからな。

ところでベリー、おれはあの商売からは一年前にすっかり足を洗ったよ。いまじゃ立派な店のオーナーだ。まっとうな暮らしをして、二週間後には世界でいちばんすてきな女の子と結婚することになった。

もうあともどりはしない。たとえ百万ドルやるといわれても、他人の金にはびた一文手をつけるつもりはないね。結婚したら、店を売って西部にいかうと思ってる。西部ならむかしの商売の足がつく危険も少ないだろうからな。

なあ、ベリーきいてくれ。彼女はまったく天使だよ。おれのことを信じきってる。彼女のためにも、金輪際曲がったことはしないつもりだ。

サリバンの店には忘れずにきてくれよ。はやくおまえに会いたいよ。道具も持っていくから。

古くからの友人 ジミー

ジミーがその手紙を書いた次の月曜の夜、ベン・プライス刑事を乗せた一台の早足の馬車が、目立たないようにエルモアの町に乗りこんできた。

ベン・プライスは求めるものを見つけるまで、しずかに町を調べて歩いた。靴屋のむかひにあるドラッグストアから、ベン・プライスはラルフ・D・スペンサーの顔を しげしげと見つめた。

「銀行家の娘と結婚するんだってなあ、ジミー」<sup>I</sup> ベンはおたやかにひとりごとをいった。「だが、そんなにうまくいくかな？」

翌朝、ジミーはアダムズ家で朝食をとった。その日ジミーはリトルロックに行くことになっていた。自分の結婚式のスーツを注文し、アナベルのためにかすてきなプレゼントを買った。エルモアにやってきて以来、町をはなれるのははじめてのことだ。最後に「プロの仕事」をしてから一年以上たっていることでもあるし、そろそろ町を出ても安全だと考えたのだ。

朝食の後、もう本物の家族といってもいいみんなで町へ出かけた。アダムズ氏、アナベル、ジミー、そして、アナベルの姉とその子ども、五歳と九歳の女の子だった。

みんなはまず、ジミーがいまだに泊まりつづけていたホテルへいった。ジミーは階段をかけ上

がり、スーツケースをとってきた。次に一行は銀行へむかった。銀行の前にはジミーを汽車の駅まで送る馬車と、御者のドルフ・ギブソンが待つていた。

(中略)

エルモア銀行では最新の金庫を入れたばかりだった。これが自慢のアダムズ氏は、みんなに見せたがった。それほど大きな金庫ではないが、新しく特許をとったばかりの扉が採用されていた。ひとつのハンドルで同時に三つの鋼鉄の錠がおりる上に、設定した時間がこないと開かない時間錠もついている。

アダムズ氏はスペンサーに得々としてその仕組みを説明したが、スペンサーのほうは礼儀正しくききながらも、たいした関心もないようすだった。ふたりの子ども、メイとアガサは、ぴかぴかの金属やへんてこりんな時計やドアノブを見て大よろこびだった。

一行がそんなことをしているところへ、ぶらぶらと銀行に入ってきたのはベン・プライスだった。ベンは仕切り柵にひじをついて、何の気なしにといった風に奥を見やった。行員には別用があるわけでなく、ただ知人を待つていただけだといった。

とつぜん、一度、二度と女性の悲鳴があがり、騒ぎになった。おとなが目をはなしたすきに、いたずら好きの九歳のメイが、アガサを金庫にとじこめて扉を閉じさせたのだ。メイはさらに、アダムズ氏がやってみせたのとおなじように錠をおろし、ダイヤルをガチャガチャと回してしまった。

老銀行家はあわててかけより、ハンドルを引いた。「だめだ。あけられない。時間もダイヤルも設定していないんだ」アダムズ氏はうめき声をあげた。

アガサの母親はヒステリックにもう一度悲鳴をあげた。

「しずかに！　しばらく黙っててくれ」アダムズ氏はふるえる手をあげた。

「アガサ！」アダムズ氏は精一杯の大声でいった。「おじいちゃんのいうことをきくんのだ」

一瞬のしずけさにつづいて、かすかに子どもの泣き声がかこえた。真つ暗闇のなか、恐怖でパニックを起こしている。

「ああ、どうしましょう」母親がなげいた。「あの子、恐怖で死んでしまうわ。お願い、ドアをあけて！　たたきこわしてでもあけて！　はやくなんとかしてよ！」

「リトルロックまでいかないと、このドアをあけることのできる人間はいないんだよ」アダムズ氏は声をふるわせながらいった。「ああ、スペンサー。いったいどうしたらいいんだ？　あの子は長くはもたん。空気が足りないんだ。そうじゃなくても、おそろしさのあまりひきつけを起こしてしまうかもしれない」

アガサの母親はそれをきいて、必死で金庫のドアをたたきはじめた。ダイナマイトで爆破したら、と乱暴なことをいうものもいた。

アナベルは大きな目に苦悩を浮かべてジミーをふりかえった。その目は、まだ絶望していない。自分が崇拜する男に不可能などないと信じきっている目だった。

「お願い、ラルフ。なんとかして。お願いだから」

ラルフは複雑な表情でアナベルを見つめた。唇にはおだやかな微笑を、<sup>③</sup> 目には鋭い光を宿していた。

「アナベル。きみがつけているバラをぼくに取れないかな？」

ほんとうにそんなことをいったのだろうかと思いに思いながらも、アナベルはドレスの胸についたバラをはずし、手わたした。ジミーはそのバラをベストのポケットに挿し、コートを脱ぎ捨て、シャツの腕をまくった。【1】

「みんな、扉からはなれて」ジミーは鋭く命じた。

スーツケースをテーブルにのせ、ふたを大きく開けた。それから後は、まわりに人がいることを忘れていたようだった。ジミーは光を放つ奇妙な道具を次々とすばやく取り出していく。仕事にかかるときはいつもそうであるように、小さく口笛まで吹いている。【2】

まるで魔法にでもかかったように、<sup>④</sup> ほかのみんなは身動きひとつせず、だまってジミーを見つめていた。【3】

一分もたたないうちに、ジミー愛用のドリルがすべるように鋼鉄のドアに穴をあけはじめた。十分もたたないうちに、錠がはずれ、ドアは開いた。ジミー自身にとつても最短の記録だった。

疲れきつてはいるものの、アガサは無事に母親の胸へもどった。【4】

ジミー・バレンタインはコートを身につけ、仕切りをこえて出口にむかった。どこか遠くからききなじんだ声で「ラルフ！」と呼ばれたような気がした。しかし、<sup>⑤</sup> ジミーは立ち止まらなかつた。

II 出口のドアをふさぐように大柄な男が立っていた。

「やあ、ベンじゃないか！」ジミーはいった。その顔には <sup>III</sup> まだ奇妙な微笑を浮かべたままだ。

「とうとう見つかっちゃったな。じゃあ、いこうか。もう、どうでもいい気分なんだ」

ところがベン・プライスは奇妙なふるまいを見せた。

IV 「なにか思いちがいをしてませんか、スペンサーさん。わたしはあなたのことはぞんじあげませんよ。あなたの馬車なら表で待っています」

V ベン・プライスはそういうと、きびすをかえし、通りを歩き去った。

(オー・ヘンリー著／千葉茂樹訳の文章より)

問1 ——線A・Bの意味として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

A 「しげしげと」

- |   |         |
|---|---------|
| 1 | 不思議そうに  |
| 2 | いたずらっぽく |
| 3 | 懐かしそうに  |
| 4 | 何度も何度も  |

B 「得々として」

- |   |       |
|---|-------|
| 1 | したり顔で |
| 2 | こと細かく |
| 3 | よどみなく |
| 4 | あきもせず |

問2 次の文は、もともと文中にあったものです。文中の【1】～【4】のどこに入りますか。最もふさわしい場所を後から一つ選び、番号で答えなさい。

その瞬間、ラルフ・D・スペンサーは死に、ジミー・バレンタインがよみがえった。

- |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 【1】 | 2 | 【2】 | 3 | 【3】 | 4 | 【4】 |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

問3 ——線①「その瞬間、自分の過去をすべて忘れ、別の人間へと生まれ変わった」とありますが、これはどういうことですか。その説明となるように、次の文章の空らんをうめなさい。ただし、**A** はひらがな五字でふさわしいことばを考えて、**B** ・ **C** は文中から五字以内でそれぞれぬき出して答えるものとします。

アナベルに **A** したことで、ジミー・バレンタインが **B** という犯罪から **C** て、まっとうに生きようと思いついたということ。

問4 ——線②「スーツケースを持った若者には気づきもしないという風に顔を上げて立ち去った」とありますが、このことを説明したものととして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 アナベルはジミーに関心をもったが、そのことに気づかれないように、わざとそっけない態度を装って通り過ぎていった。
- 2 アナベルはジミーに興味をもったものの、どことなく危険な雰囲気を感じ取ったことで視線をあわせないように行動した。
- 3 アナベルはジミーのことなどまったく気にとめていなかったので、ジミーがすぐそばにいたけれど気づくことはなかった。
- 4 アナベルは男の子の襟首をつかむような乱暴な行為をはたらくジミーのことが不愉快に思えて、無視をきめこもうとした。

問5 ——線③「目には鋭い光を宿していた」とありますが、どうしてですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 アナベルが自分の過去を知ったうえで、アガサを救うことを願っていることに気づいたから。
- 2 アガサを助ければ自分の過去が明らかになってしまおうという窮地におちいってしまったから。
- 3 アナベルの願いをかなえることで、いっそう自分への思いを強くさせたいと画策したから。
- 4 アガサを救うには、ジミー・バレンティンとしての本領を発揮するしかないとしたから。

問6 ——線④「ほかのみんなは身動きひとつせず、だまってジミーを見つめていた」とありますが、この時の「みんな」についての説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 アガサを救うことは無理だとわかっているのに、ジミーの行動の意味が理解できないでとまどっている。
- 2 思いがけない展開に驚きつつも、事態がどうなっていくのか固唾をのんでジミーの行動を見守っている。
- 3 ジミーの余裕ある態度や手際よさに感心しつつも、救出の可能性はないものとあきらめてしまっている。
- 4 ジミーの正体がわかり、ジミーを非難する思いと同時にアガサが救われることについては安堵している。

問7 ——線⑤「ジミーは立ち止まらなかつた」とありますが、この時のジミーについての説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「ラルフ！」という呼び声など空耳で、だれひとり自分をとめてくれないことに失望を感じていた。

2 「ラルフ！」と呼ばれたものの、それが自分を呼ぶ声だとさえ気づかないほど頭が混乱していた。

3 「ラルフ！」と呼ばれたとしても、もはや自分はラルフ・D・スペンサーではないのだと思っていた。

4 「ラルフ！」という声が冷たくよそよそしく聞こえ、一刻も早くその場を立ち去ろうとしていた。

問8 次にあげるのは、「ベン・プライス」に関する生徒の感想です。その内容としてふさわしいと考えられるものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 A太：「ベンはおだやかにひとりごとをいった」(~~~~線Ⅰ)とあるように、ジミーに対しては最初から敵意のようなものはなかったんじゃないかな。

2 B作：「そうかな。「出口のドアをふさぐように大柄な男が立っていた」(~~~~線Ⅱ)とあるから、ここでもベンはジミーを捕らえようとしていることがわかるけど。」

3 C彦：「ベンはジミーが「まだ奇妙な微笑を浮かべ」(~~~~線Ⅲ)ているのを見て、ジミーを誤解していたことに気づいたんだね。」

4 D人：「ベンが言った『なにか思いがちがいをしてませんか、……待ってます』」(~~~~線Ⅳ)には、ジミーへの敬意がしめされているよね。」

5 E郎：「最後に「きびすをかえし、通りを歩き去った」(~~~~線Ⅴ)とあるけど、ベンはジミーを捕らえることをあきらめてはいないよね。」

問9 この文章につける題名として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 恩恵おんけい

2 後悔こうかい

3 改心

4 誤解

(問題は次のページに続く)



3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

日日

谷川俊太郎

ある日僕は思った  
僕に持ち上げられないものなんてあるだろうか

次の日僕は思った

僕に持ち上げられるものなんてあるだろうか

暮れやすい日日を僕は

傾斜して歩んでいる

これらの親しい日日が

つきつき後ろへ駆け去るのを

いぶかしいようなおそれの気持ちで みつめながら

〔谷川俊太郎詩集〕より

問1 この詩で使われている表現技法を次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 体言止め

2 呼びかけ

3 直喩(明喩)

4 対句法

問2 ——線①「僕に持ち上げられないものなんてあるだろうか」とありますが、ここから読み

取れる気持ちとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 不安

2 謙遜

3 自信

4 反省

問3 ——線②「傾斜して歩んでいる」とはどのようなようすを表していると考えられますか。

最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 時間の流れに不安を感じながらも、前向きに成長しようとしている。

2 時間の流れに取り残されながらも、孤独とたたかっている。

3 時間の流れに絶望を感じ、打ちひしがれている。

4 時間の流れに戸惑いを感じ、立ち止まろうとしている。



問4 ——線③「つぎつぎ後ろへ駆け去る」とありますが、これはどのようなようすを表現したものでですか。それを説明した次の文の  にあてはまることばを十字以内で考えて答えなさい。

親しい日日がとても  ようす。

問5 ——線④「みつめながら」はどのことばにかかりますか。詩の中から五字以内でぬき出しなさい。

4

漢字に関する次の問いに答えなさい。

漢字の多くは、意味を表す部首と、音を表す音符おんぶの組み合わせで成り立っている形声文字です。次のA～Eの漢字はどのような組み合わせでできていますか。部首は1～9から選び、音符は考えて記しなさい。

(例) 志し 志し 〔部首〕 9 + 〔音符〕 士

- A 究
- B 貨
- C 速
- D 預
- E 裏

【部首】

- 1 やねに関する部首
- 2 ころもに関する部首
- 3 みちに関する部首
- 4 あたまに関する部首
- 5 くさに関する部首
- 6 おかねに関する部首
- 7 みずに関する部首
- 8 あなに関する部首
- 9 ころもに関する部首



